

図3には、PFOS、PFOAについて、多摩川の本川および本調査での最上流地点(永田橋)から最下流地点(多摩川原橋)までに存在する支川、下水処理場放流水の負荷量を示しました。なお、多摩川本川については、各地点でPFCs濃度と流量を乗じて求めた実測負荷量と、永田橋を起点に支川等の負荷量を順次積算した積算負荷量を算出し、両者がよく一致していることを確認しました。ここからPFOS、PFOAは、実証はしていないものの、揮発、分解等を起こすことなく、河川を流下することが示唆され、収支を精度よく試算できました。

なお、現在はPFCsの環境動態を解明するため、東京湾に生息している魚類への蓄積状況を調査しています。

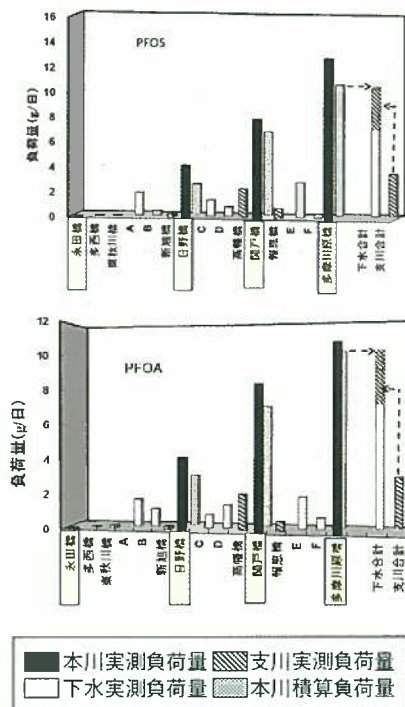
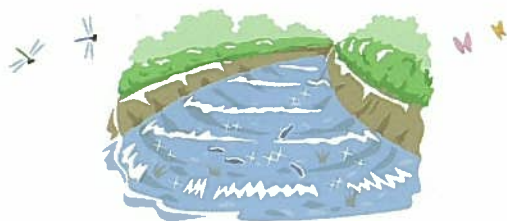


図3 多摩川水系におけるPFOS、PFOAの負荷量収支(地点名の□の囲み地点は多摩川本川の地点を示す)

区市担当者への技術支援実施状況

水生生物調査に関する研修会

平成24年7月27日に、区市職員等を対象に水生生物調査に関する研修会を行いました。本研修会では、まず八王子市の小仏川において水生生物の採取方法、流速の測定方法などの説明をした後、実際に川に入り受講者に水生生物採取などを行っていただきました。その後同市内の浅川市民センターに移動し、採取した水生生物の分類・同定や各生物に関する解説を行いました。

環境省が推奨する全国水生生物調査では、東京都の参加者数はまだまだ多くはありません。本研修会を各区市におけるリーダー研修としてご活用いただき、東京都における水生生物調査の普及に貢献できるよう、今後も継続してきます。



小仏川での水生生物の採取



採取した水生生物の分類



種類ごとにシャーレに取り分ける



顕微鏡を用いての観察と解説